

外部評価報告書

平成20年10月
静岡大学農学部

目 次

1. まえがき	1
2. 静岡大学農学部外部評価委員会実施概要	2
3. 静岡大学農学部外部評価委員会記録	3
4. 外部評価会『講評』	2 5
5. 指摘事項および提言のまとめ	2 6
6. 外部評価に対する今後の取り組み	4 3
7. 各委員から頂いた質問、コメント、評価（一部省略）	4 7
8. あとがき	5 4
9. 自己評価委員会委員名 一覧	5 5

1 まえがき

平成16年度から国立大学法人化され、中期目標・計画を策定し、それにしたがって事業を行う新たな方式が開始された。当初、実施体制、推進方法等に戸惑う場面もあったが、農学部ではこれまで教育研究の向上に積極的に取り組んできた。法人化後4年、中期目標・計画の2/3が過ぎた。既にいくつかの項目で成果が上がっているものがある反面、未だ実施途中であるものもある。このような中で、今回外部評価を受けることは、これまでの成果の評価と今後の課題の明確化にとって絶好の機会であると考えます。

外部評価にあたっては、農学分野での教育・研究に造詣の深い篠田善彦 岐阜県立森林文化アカデミー学長、民間企業の立場として坂井和男 焼津水産化学工業株式会社代表取締役社長、農業生産現場に精通している芹澤拙夫 静岡県経済農業協同組合連合会技術参与、農業振興施策の立案に携わり、農政全般に精通している堀川知廣 静岡県産業部部長代理の各先生方に委員就任をお願い、多忙にもかかわらず快く引き受けていただいたことに感謝申し上げます。

昨今、日本の食料自給率の低下、WTOの交渉決裂など農業関連記事が新聞紙上で度々取り上げられ、社会の農業に対する関心が高まっている。「食の安全・安心」への話題や「地産地消」など、食を通じて消費者の農業への関心も高まっている。一方、農業従事者の高齢化が進む中で、生産物価格の低迷、原油やリン鉱石など生産資材の価格の急激な高騰と、依然農業を巡る環境は厳しい状況が続いている。しかし、振り返ってみると、これらの時代・社会の要請・課題を解決できる学問分野は農学部のほかにはなく、農学部への大きな期待とともに、本学部が果たさなければならない責務の重大さを再認識する次第である。

今回の外部評価の結果は、これまで4年間の成果に対する客観的な評価であることはもとより、いただいたご指摘、ご意見は本学部の将来方向を示唆する貴重なものと考えます。多大な貴重な時間を割いて貴重なご意見を下さったことに、改めて心より感謝申し上げますとともに、今後の取り組みに反映させる所存である。

最後に、膨大な資料の収集、自己評価書の作成を含め、準備から本報告書を作成するまでにご尽力いただいた本学部平成19年度・20年度自己評価委員会のメンバーならびに関係各位に感謝申し上げます。

平成20年10月末日

静岡大学農学部長

高木 敏彦

2 静岡大学農学部外部評価委員会実施概要

2-1 外部評価の目的、実施方法、日程等

(1) 外部評価の目的

学外の有識者に外部評価委員を委嘱し、本学部の教育・研究・社会連携、国際交流、組織に関して、自己評価書（「事前審査」）および実地調査（「当日調査」）結果に基づいて評価および将来への提言を受け、本学部の発展に資することを目的とする。

(2) 外部評価委員

篠田 善彦（岐阜県立森林文化アカデミー 学長）
坂井 和男（焼津水産化学工業株式会社 代表取締役社長）
芹澤 拙夫（静岡県経済農業協同組合連合会 技術参与）
堀川 知廣（静岡県産業部 部長代理）

(3) 評価方法

- ① 農学部自己評価委員会を中心にして作成した自己評価書・参考資料とアンケート票（A教育（学部）、B教育（研究科）、E研究、D社会連携、E国際交流、F組織の各基準に係る項目）を事前に外部評価委員に送付し、事前調査・評価を依頼する。
- ② 外部評価委員会を開催し、組織の概要・自己評価結果の説明、施設・設備等の見学・調査と質疑応答を行う。
- ③ 外部評価委員会から、事後に、事前調査および当日調査の結果に基づき、アンケート票の回答を受ける。
- ④ 外部評価結果を農学部自己評価委員会が報告書にまとめて公表する。

(4) 外部評価日程

平成20年4月～7月 : 自己評価書・参考資料の作成
平成20年8月上旬 : 自己評価書・参考資料を外部評価委員に発送
平成20年8月中旬 : 学部内教員に回覧
平成20年9月1日 : 学部評価委員会の開催
平成20年9月～11月 : 外部評価報告書の取りまとめ
平成20年12月 : 外部評価報告書の公表

3 静岡大学農学部外部評価委員会記録

3-1 「当日調査」の日程

(1) 実施日：平成20年9月1日

場 所：A棟1F 大会議室

11:00～17:10 「当日調査」

開会 (11:00～11:15)

外部評価委員等出席者の紹介

スケジュールの確認

外部評価委員会委員長の選出 (篠田善彦先生を選出)

評価の概要説明

自己評価結果の概要説明(11:15～12:10)

昼食・休憩 (A棟1F 小会議室) (12:10～13:00)

質疑応答 (13:00～15:15)

休 憩 (15:15～15:30)

施設・設備の見学等 (15:30～16:30)

A棟 1F 学務係前、ホール (自動販売機前)

A棟 1F 第3小会議室 (旧演習林室)

A棟 2F 図書室

A棟 3F バイオ解析ゾーン

A棟→B棟渡り廊下 休憩スペース

B棟 講義室 201、202室

B棟 3F レンタルラボ→学生控室→バイオ工学ゾーン
→技術支援室→環境教育ゾーン

B棟 ピロティ

屋外 温室 (トマト栽培)

A棟 ピロティ

A棟 屋上

16:30～17:10 外部評価委員会

17:10～17:45 評価結果の講評

(2) 当日調査および外部評価委員会 出席者

外部評価委員（4名）

- 篠田 善彦（岐阜県立森林文化アカデミー 学長）
- 坂井 和男（焼津水産化学工業株式会社 代表取締役社長）
- 芹澤 拙夫（静岡県経済農業協同組合連合会 技術参与）
- 堀川 知廣（静岡県産業部 部長代理）

学部長・評議員（3名）

- 高木 敏彦 学部長
- 鈴木 滋彦 評議員
- 渡邊 修治 評議員

農学部各委員会委員長（4名）

- 大村 三男 教務委員長
- 森 誠 前教務委員長
- 森田 明雄 自己評価委員長
- 森田 達也 入試委員長

総務・学務関係

- 鈴木 晴夫 事務長

3-2 外部評価委員配布資料一覧

(1) 事前評価

- ① 自己評価書（目次のみを別紙1に示す）
- ② アンケート票（別紙2）
- ② 農学部学生便覧
- ③ 農学部案内

(2) 当日評価

- ① 静岡大学農学部自己評価の外部評価「当日調査」について
- ② 概要説明資料

3-3 外部評価の記録

(1) 事前審査

自己評価書を各外部評価委員に8月上旬に郵送し、「当日審査」までの間に事前評価を依頼した。

なお、評価は基準毎に行い、評価点は5段階評価（1. 優れている、2. やや優れている、3. 適正である、4. 若干の修正が必要である、5. 大幅な改善が必要である）とし、指摘事項とともにアンケート票に記入した。

(2) 当日審査

① 実施日：平成20年9月1日

場 所：A棟1F 大会議室

② 出席者

	氏 名	所属・役職
外部評価委員	篠田 善彦	岐阜県立森林文化アカデミー 学長
	坂井 和男	焼津水産化学工業株式会社 代表取締役社長
	芹澤 拙夫	静岡県経済農業協同組合連合会 技術参与
	堀川 知廣	静岡県産業部 部長代理
農学部	高木 敏彦	学部長
	鈴木 滋彦	副学部長
	渡邊 修治	副学部長
	大村 三男	教務委員長
	森 誠	前教務委員長
	森田 明雄	自己評価委員長
	森田 達也	入試委員長
	鈴木 晴夫	事務長

③ 日程

11:00～12:10 自己評価結果の概要説明

12:10～13:00 昼食・休憩

13:00～15:15 質疑応答

(休 憩)

15:30～16:30 施設・設備の見学等

16:30～17:10 外部評価委員会

17:10～17:45 外部評価委員からの講評

④ 当日審査」内容について（11：15～17：45）

1) はじめに（11：00～11：15）

別紙 3 を配布し、最初に出席者の紹介、審査日程の紹介を行った。また、外部評価委員会の委員長に篠田委員を推薦し、委員全員から了承を得た。

別紙 3-2 により、外部評価の位置付けと「当日審査」の内容について確認を行った。

2) 自己評価結果の概要説明（11：15～12：10）

別紙 4 を配布し、高木 農学部長より Power point を用いて、今回実施した自己評価結果の概要を説明した。

3) 質疑応答（13：00～15：15）

A 教育－学部－、B 教育－研究科－、C 研究、D 社会連携、E 国際協力、F 組織の 6 項目について、A から項目ごとに質疑応答を行った。主な指摘事項は以下のとおりである。（具体的な質疑応答については別紙 4 を参照）

4) 施設・設備の見学等（15：30～16：30）

下記のとおり、学部内施設等の見学を行った。

- ① A棟 1F 学務係前、ホール（自動販売機前）
- ② A棟 1F 第3小会議室（旧演習林室）
- ③ A棟 2F 図書室
- ④ A棟 3F バイオ解析ゾーン
- ⑤ A棟→B棟渡り廊下 休憩スペース
- ⑥ B棟 講義室 201、202 室
- ⑦ B棟 3F レンタルラボ→学生控室→バイオ工学ゾーン
→技術支援室→環境教育ゾーン
- ⑧ B棟 ピロティ
- ⑨ 屋外 温室（トマト）、防護壁工事後
- ⑩ A棟 ピロティ
- ⑪ A棟 屋上

5) 外部評価委員会（16：30～17：10）

篠田委員長を中心に、外部評価委員会が開催され、自己評価書による「事前審査」、質疑と施設等の見学による「当日審査」に基づき、評価のまとめを行った。

6) 外部評価委員会からの講評 (17:10~17:45)

各外部評価委員からのコメント、篠田委員長から講評を頂いた。

<別紙 1 - 1 >

自己評価書の目次

A. 教育－学部－		
I	学部の現状及び特徴	1
II	目的	3
III	基準ごとの自己評価	5
基準 1	教育の目的	5
基準 2	教育の実施体制	8
基準 3	教員及び教育支援体制	12
基準 4	学生の受入れ	18
基準 5	教育内容及び方法	23
基準 6	教育の成果	34
基準 7	学生支援等	39
基準 8	教育の質の向上及び改善のためのシステム	47
B. 教育－研究科－		
I	研究科の現状及び特徴	53
II	目的	55
III	基準ごとの自己評価	57
基準 1	教育の目的	57
基準 2	教育の実施体制	60
基準 3	教員及び教育支援体制	63
基準 4	学生の受入れ	69
基準 5	教育内容及び方法	73
基準 6	教育の成果	87
基準 7	学生支援等	82
基準 8	教育の質の向上及び改善のためのシステム	94
C. 研究－学部・研究科－		
I	基準ごとの評価	100
基準 1	研究の目的	100
基準 2	研究の実施体制	103
基準 3	研究活動の状況と成果	107
基準 4	研究の質の向上及び改善のためのシステム	111

<別紙1-2>

D. 社会連携—学部・研究科—		
I	基準ごとの評価	114
	[教育サービス面における社会連携活動]	
	基準1 教育サービス面における社会連携活動の目的	114
	基準2 教育サービス面における社会連携活動の状況と成果	116
	[研究サービス面における社会連携活動]	
	基準3 研究サービス面における社会連携活動の目的	118
	基準4 研究サービス面における社会連携活動の状況と成果	120
E. 国際交流—学部・研究科—		
I	基準ごとの評価	122
	基準1 国際交流活動の目的	122
	基準2 教育面における国際交流活動の状況と成果	124
	基準3 研究面における国際交流活動の状況と成果	126
F. 組織—学部・研究科—		
I	基準ごとの評価	128
	基準1 施設・設備	128
	基準2 財務	132
	基準3 管理運営	135
<別添資料>		
A.	教育—学部—	140
B.	教育—研究科—	290
C.	研究—学部・研究科—	391
D.	社会連携—学部・研究科—	422
E.	国際交流—学部・研究科—	444
F.	組織—学部・研究科—	460

農学部の教育について、自己評価報告書による「事前評価」と外部評価委員会での「当日評価」の結果に基づき、基準毎に該当する評価点を○で囲み、指摘事項に評価に関わるコメントを記入してください。

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 教育の目的	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 2 教育の実施体制	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 3 教員及び教育支援体制	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 4 学生の受入れ	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 5 教育内容及び方法	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 6 教育の成果	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 7 学生支援等	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 8 教育の質の向上及び改善のためのシステム	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
総合評価	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	

アンケート票 B (教育 一研究科一)

外部評価委員 氏名

農学研究科の教育について、自己評価報告書による「事前評価」と外部評価委員会での「当日評価」の結果に基づき、基準毎に該当する評価点を○で囲み、指摘事項に評価に関わるコメントを記入してください。

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 教育の目的	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 2 教育の実施体制	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 3 教員及び教育支援体制	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 4 学生の受入れ	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 5 教育内容及び方法	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 6 教育の成果	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 7 学生支援等	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
基準 8 教育の質の向上及び改善のためのシステム	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	
総合評価	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 相当	

アンケート票 C (研究 一学部・研究科一)

外部評価委員 氏名

農学部・農学研究科の研究について、自己評価報告書による「事前評価」と外部評価委員会での「当日評価」の結果に基づき、基準毎に該当する評価点を○で囲み、指摘事項に評価に関わるコメントを記入してください。

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 研究の目的	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 適当	
基準 2 研究の実施体制	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 適当	
基準 3 研究活動の状況と成果	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 適当	
基準 4 研究の質の向上及び改善のためのシステム	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 適当	
総合評価	1. 優れる 4. やや劣る 2. やや優れる 5. 劣る 3. 適当	

アンケート票 D (社会連携 一学部・研究科一)

外部評価委員 氏名

農学部・農学研究科の社会連携について、自己評価報告書による「事前評価」と外部評価委員会での「当日評価」の結果に基づき、基準毎に該当する評価点を○で囲み、指摘事項に評価に関わるコメントを記入してください。

項目	評価点	指摘事項
基準 1 教育サービスマンにおける社会連携活動の目的	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
基準 2 教育サービスマンにおける社会連携活動の状況と成果	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
基準 3 研究サービスマンにおける社会連携活動の目的	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
基準 4 研究サービスマンにおける社会連携活動の状況と成果	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
総合評価	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	

アンケート票 E (国際交流 一学部・研究科一)

外部評価委員 氏名

農学部・農学研究科の国際交流について、自己評価報告書による「事前評価」と外部評価委員会での「当日評価」の結果に基づき、基準毎に該当する評価点を○で囲み、指摘事項に評価に関わるコメントを記入してください。

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 国際交流活動の目的	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
基準 2 教育面における国際交流活動の状況と成果	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
基準 3 研究面における国際交流活動の状況と成果	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
総合評価	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	

外部評価委員 氏名

農学部・農学研究科の社会連携について、自己評価報告書による「事前評価」と外部評価委員会での「当日評価」の結果に基づき、基準毎に該当する評価点を○で囲み、指摘事項に評価に関わるコメントを記入してください。

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 施設と整備	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
基準 2 財務	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
基準 3 管理運営	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	
総合評価	1. 優れる 2. やや優れる 3. 適当 4. やや劣る 5. 劣る	

平成20年9月1日

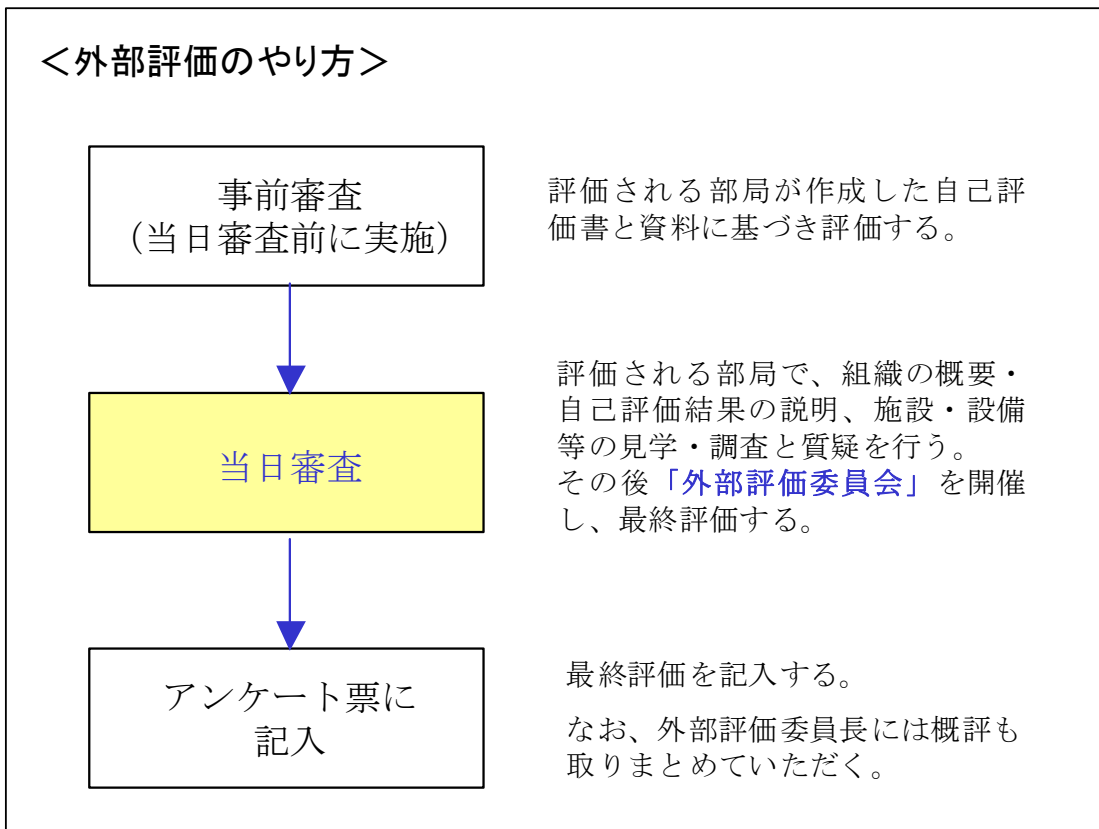
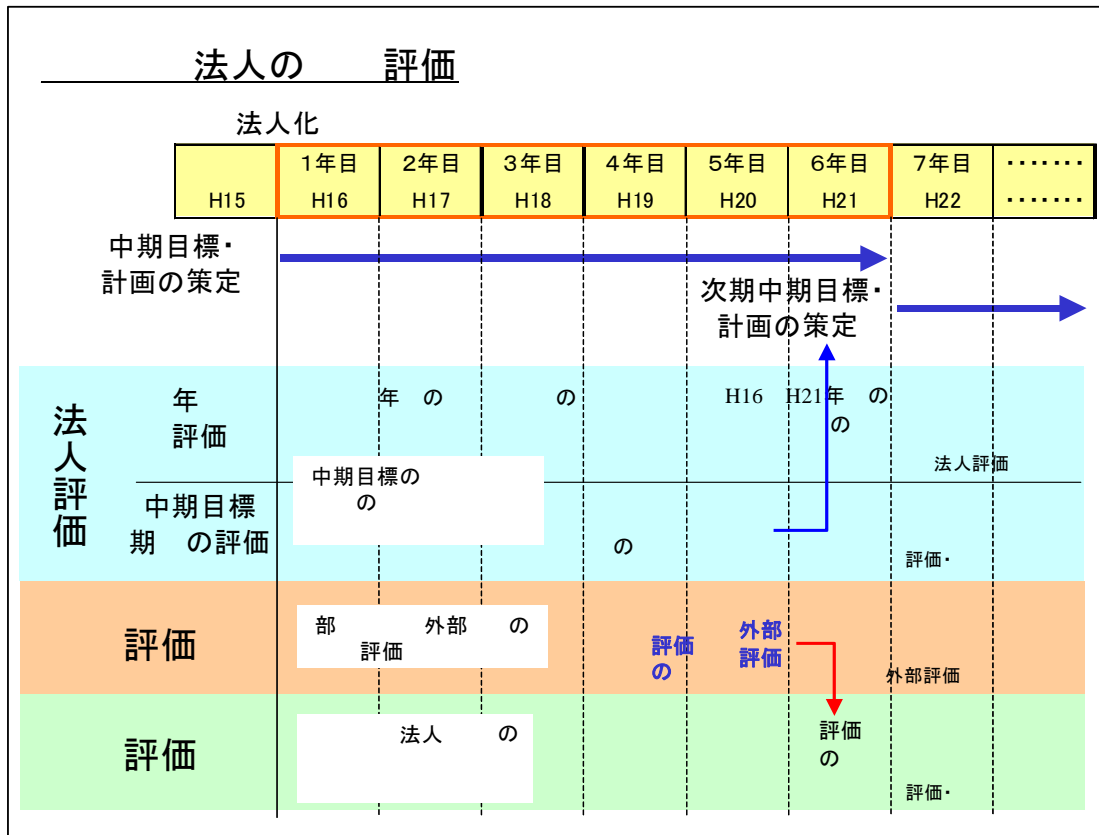
静岡大学農学部自己評価の外部評価 「当日調査」について

1. 日程

- 11:00～ 自己評価結果の概要説明(1時間程度)
- 12:00～ 昼食・休憩
- 13:00～ 質疑応答(2時間程度)
- (休 憩)
- 15:30～ 施設・設備の見学等
- 16:00～ 外部評価委員会
- 17:00～ 外部評価委員からの講評

2. 出席者名簿

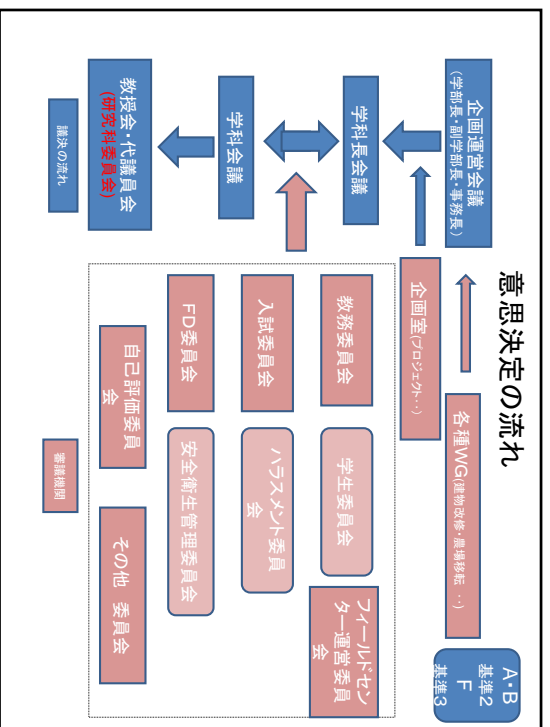
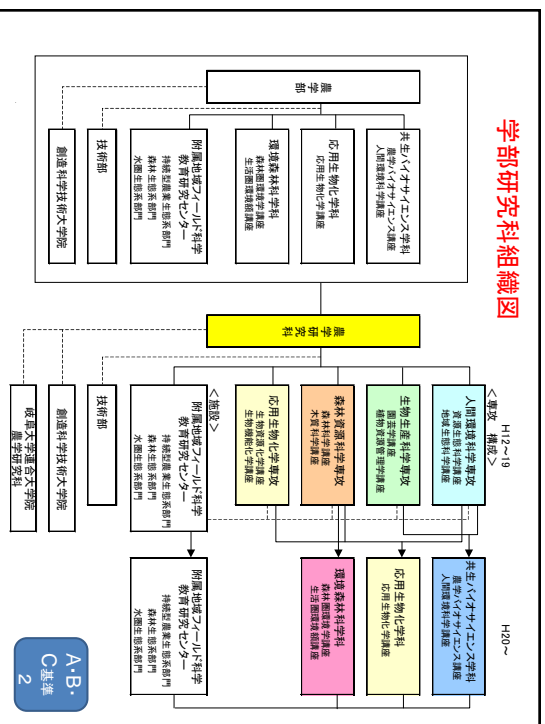
	氏 名	所属・役職
外部評価委員	篠田 善彦	岐阜県立森林文化アカデミー 学長
	坂井 和男	焼津水産化学工業株式会社 代表取締役社長
	芹澤 拙夫	静岡県経済農業協同組合連合会 技術参与
	堀川 知廣	静岡県産業部 部長代理
農学部	高木 敏彦	学部長
	鈴木 滋彦	副学部長
	渡邊 修治	副学部長
	大村 三男	教務委員長
	森田 明雄	自己評価委員長
	森田 達也	入試委員長
	鈴木 晴夫	事務長





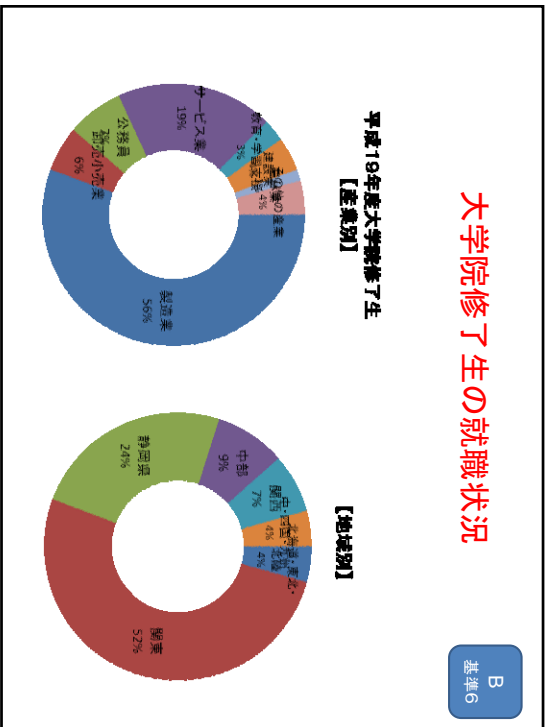
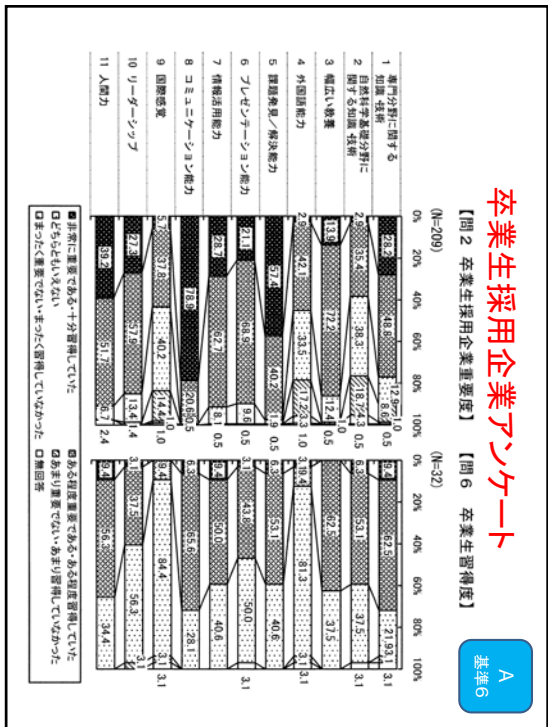
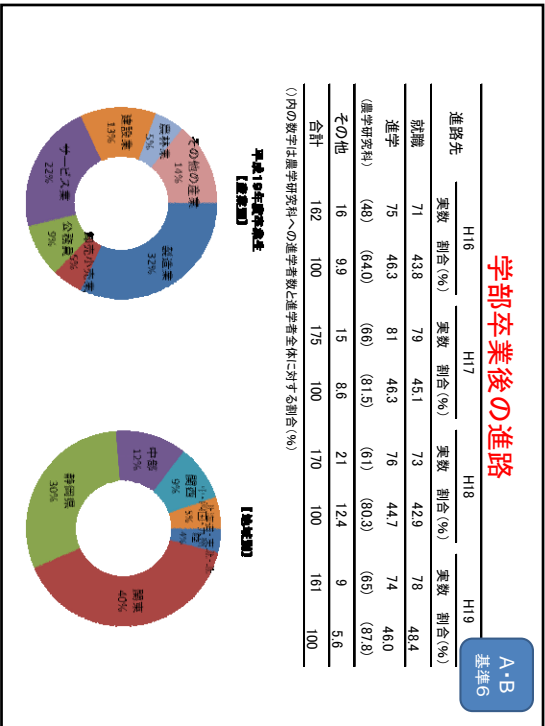
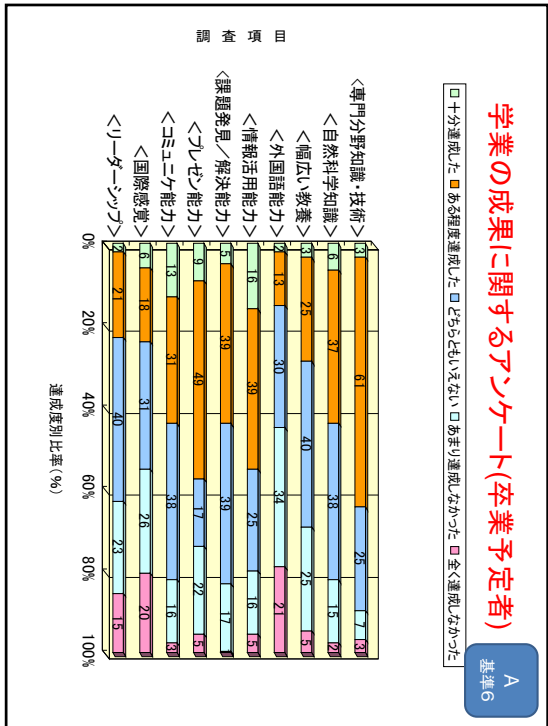
農学部概要(20年度)

梅ヶ島大代地区



教員配置と教育支援体制

学科(専攻)	学部学 生定員	大学院学 生定員	教授	准教授	助教	計
共生バイオサイエンス学科(専攻)	60	34	13 (1人兼務)	12 (1人兼務)	2	27
応用生物化学科(専攻)	50	35	14 (3人兼務)	7	1	22
環境森林科学科(専攻)	40	18	9	5	3	17
フューエルセンター	150*	87	0	2	2	4
計				36	26	70
備考 (平成20年4月1日現在)		他に3年次 編入10人		女性教員 1名	女性教員 2名	女性教員 3名



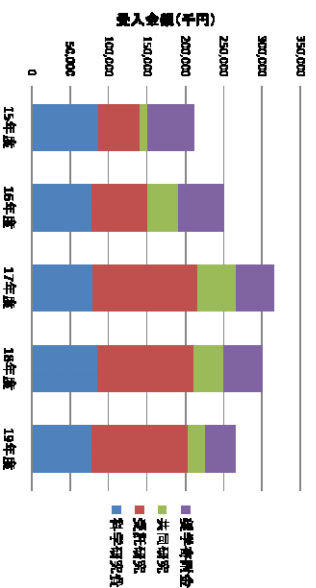
学生の学習・生活支援

A・B
基準7

- 学務情報
 - ・ガイダンス
 - ・シラバス
 - ・学務情報システム
- 学生生活支援
 - ・学生相談室(生活相談・ハラスメント)
 - ・就職支援(各種説明会・OBによる相談会)
- 学習環境
 - ・図書室の開室時間
 - ・リフレクシユスペース
- 学生表彰制度
 - ・成績優秀者(2年次、4年次)
 - ・グローバルパワー科目成績優秀者表彰
 - ・学会受賞者表彰

外部資金

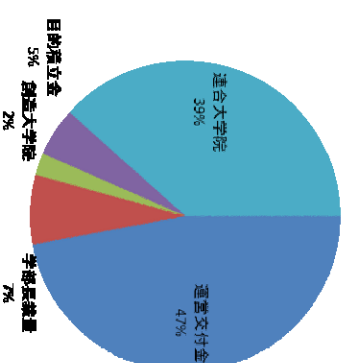
C・基準
3
F：基準
2



財政状況

農学部運営経費 (H19年度2億6780万円)

C：基準3
F：基準2



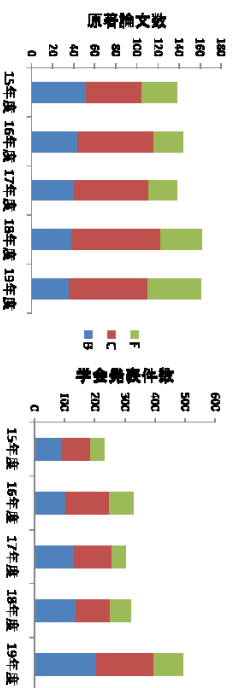
生物産業育成のための公募型研究プロジェクト

C：基準
3
D：基準
4

- 文科省 都市エリア産業連携促進事業 (地域産官学結集)
“心身ストレス克服に起因する生活習慣病の克服を目指したフーズサイエンスビジネスの創出”(H17～19)
- 農水省 新技術・新分野創出のための基礎研究推進事業 (生研機構)
“高次タンパク質の大量発現用バクテリオファージの開発及び応用”(H17～20)
- 農水省 民間結集型アグリビジネス創出技術開発事業
“苦味糖質ゲンチオリゴ糖の大量生産法の構築及びその利用”(H17～19)
- 経済産業省 地域コンソーシアム研究開発事業
“高輝度LEDと亜臨界水抽出による薬用植物生産プロセスの構築”(H18～19)
- 文科省 地域イノベーション創出総合事業育成研究 (JST)
“新規食品成分を用いた高機能食品と植物成長調節剤の開発”(H19～21)
“廃油油脂資源からリボフラビン生産獲得の開発”(H19～21)
- 静岡県 “しみず”新産業開発振興機構
“駿河湾地域新事業の創出プロジェクト”(H17～)

主な研究活動(原著論文・学会発表)

C
基準3



教育・研究支援・環境整備 (H19年度実績) (学部長裁量経費約 1,900万円)

F
基準1
基準2

- 教育活性化支援(370万円)
 - ・学生実験・実習等教育充実
 - ・プロジェクト支援
- 研究活性化支援(650万円)
 - ・論文発表支援
 - ・若手教員研究支援
 - ・再チャレンジ支援
- 教育・研究環境整備(880万円)
 - ・教育研究推進センター
 - ・実験動物施設整備
 - ・研究室・実験室整備
 - ・技術支援室整備

教員・学生の学会等での受賞件数

C
基準3

受賞者	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年
学生・院生	1	2	2	4
教員	4	3	3	3

教育面における社会貢献

D
基準2

	平成17年	平成18年	平成19年
高等学校との連携			
出前授業・説明会	14	15	14
サイエンス・アートナーシング	3	2	2
スーパーサイエンスハイスクール	—	—	5
公共機関との連携			
講座・講演会	18	9	11
各種審議会	9	3	3
その他委員	90	49	55
社会人のワークショップ			
科目等履修生	4	5	0
公開講座・講演会等	11	6	13
フアール・イベント開催	117	89	135

学生の国際交流

留学生	16年度	17年度	18年度	19年度
学部生	4	9	7	9
修士課程	10	12	8	7
博士課程	16	22	19	21
学部研究生	5	1	4	2
大学院研究生	2	2	2	1
合計	53	63	58	59

E
基準2



学部の特徴的教育・研究活動

- 教育
 - ・静岡市中山間地域における農業活性化—社一村しずおか運動に連結した農業環境教育プロジェクト—(現AGP探採)
- 研究
 - ・駿河湾地域新事業推進研究会—静岡大学生物産業創出拠点
 - ・静岡県先進的農業推進協議会(農産業部)
 - ・産地技術課題解決研究会(UA-県)
 - ・環境バイオリサーチコア形成による駿河湾生物産業創出事業(駿河湾プロジェクトとして進行中、H21年度概算申請)
- 地域連携
 - ・スノーバーサイエンス・ハイスクール・プログラム(静岡北高)
 - ・サイエンス・パートナーシップ・プログラム(常葉橋高ほか)
 - ・地域生物産業の安全と安心を支える実務型オペレーター育成プログラム(社会人の学び直しニーズ対応推進プログラム申請中)
 - ・農業ビジネス経営体育成のための教育体制・プログラムの構築・検証(産学連携人材育成事業申請中)

A: 基準5
D: 基準2
E: 基準3

教員の国際交流

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
研究者の受入人数	5	6	5	7
学部教員の派遣人数	1	2	1	0

E
基準3

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
国際学会発表(件数)	42	40	48	69
国際学会・シンポジウム参加(人)	11	11	13	20
共同研究の実施(人)	22	14	9	1
開発途上国への国際協力(人)	1	0	1	1

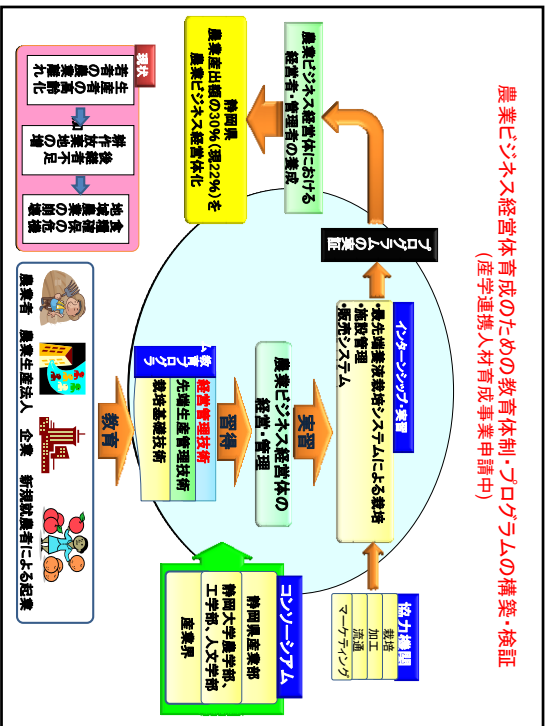
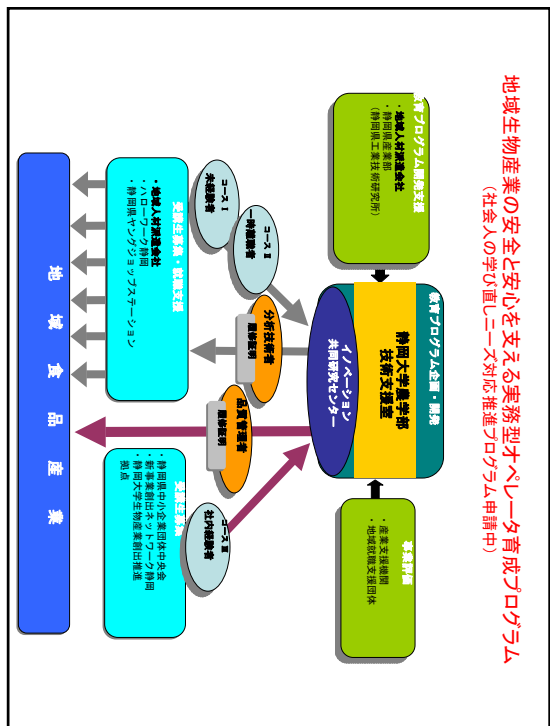
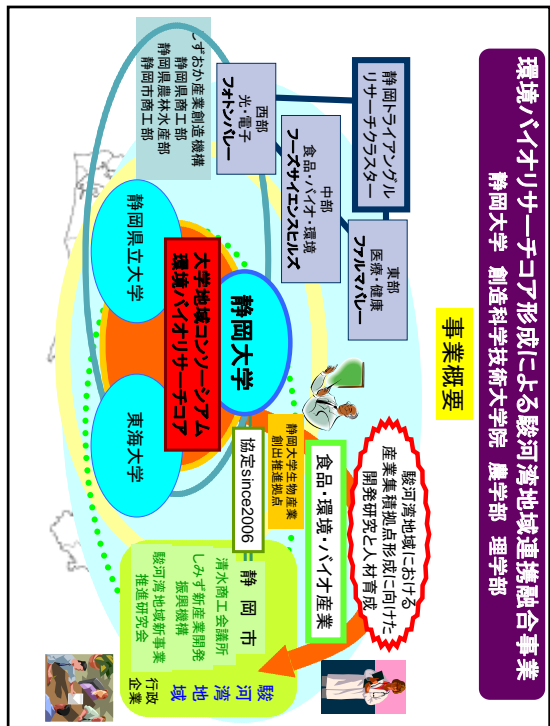
「社一村しずおか運動」に連結する農業環境教育プロジェクト

(文科省 現代GP探採 平成19～21年度)

全国的に中山間地域では高齢化、高齢化が進み、耕作放棄地、里山荒廃、空き家の増加等、農村自体が疲弊しています。そこで、中山間地域を農業体験教育のみならず社会教育の場として、環境リーダーの養成のための実習地として位置付け、ここに新たなプロジェクト「農業環境教育プロジェクト」を策定させました。



裾ヶ島大代地区風景



静岡大学農学部外部評価委員会 講評

平成 20 年 9 月 1 日

外部評価委員長 篠田善彦

・静岡大学農学部の総合評価は委員全員優れていると評価する。

以下の点は、更なる発展を期待する上での指摘事項である。

- ・教育の目的・目標について、具体的に記載し、一般の人にも分かりやすく、どんな人材を養成するのか理解できるとよい。
- ・静岡大学農学部は学部教育、研究科教育、研究、社会連携および国際交流について重点順位をつけて特化するとよい。教員数も限られており、静岡大学農学部の特徴を明確にし、社会に公表すべきである。
- ・研究活動と社会連携が優れていると評価する。
- ・教育目標を明確にして、メリハリをつけると静岡大学農学部の特徴がはっきりする。
- ・アンケート結果を生かし、改善すること。
- ・国際感覚と外国語能力の不足に対する具体的な対策を考えてほしい。
- ・静岡県は優れた企業が多くあり、学生を地元企業に送り込んでほしい。地方大学の地域貢献は重要である。静岡県に必要な人材養成を期待する。地元企業へのインターンシップを活用すれば、優秀な学生が静岡に就職する。教員も静岡県の企業について認識し、推薦してほしい。
- ・静岡県との連携をさらに深め、現場で問題となっている課題について共同研究を進めて、問題解決し地元へ還元することを期待する。
- ・学部運営に当たっては、執行部のリーダーシップの発揮を期待する。
- ・研究内容について分かりやすく、広報活動を活発にし、一般の人に静岡大学農学部の研究活動を理解していただくとよい。
- ・学生の満足度を高めるように、教員の指導体制を強化していただきたい。
- ・農学研究科の入試で専攻によって、入試科目が違う。その理由が分からない。一部共通科目（英語）を設けることを検討するとよい。

5 指摘事項および提言のまとめ

5-1 アンケート票のまとめ

各外部評価委員によりアンケート票に記入された評価点と指摘事項を別紙5にまとめた。

5-2 項目別の評価

(1) 評価点

外部評価委員が5段階評価で評価したアンケート結果を次のように点数化して、各項目の基準毎に平均値を求めた(別紙6)。

評 価	点数
優れている	5点
やや優れている	4点
適正である	3点
若干の修正が必要である	2点
大幅な改善が必要である	1点

その結果、平均評価点は全ての項目、基準で3点(適正である)を上回った。個々の外部評価委員の評価点を見ても、2点(若干の修正が必要である)となったのは、F組織の基準1「施設と整備」のみであった。農学部の建物が築30年以上を経過し、老朽化していることが原因であった。

また、教育については、学部、研究科とも基準2「教育の実施体制」で高い評価を得た。研究と社会連携では、各基準において高い評価であった。国際交流では基準2「教育面における国際交流活動の状況と成果」、組織では、基準2「財務」と基準3「管理運営」で高い評価を得た。

(2) 指摘事項

「事前審査」による自己評価書の評価と「当日調査」の質疑応答並びに外部評価委員会の講評において、大幅に改善すべき点、早急に改善すべき点についての指摘はなかったが、更なる発展を期待するとして上で外部評価委員から指摘された事項を項目別にまとめた。

A 教育-学部-

- ・一般の人にも分かりやすい具体的な目的、目標(農学部の特徴が分かるメリハリのつけたもの)を記載し、どのような人材を養成するのか理解できるとよい(研究科も同様)。
- ・国際感覚と語学力の向上については検討を要する。多くの海外の大学

との単位互換の締結や経済的な支援など、学生が留学しやすい環境作りが大切だと考える（研究科も同様）。

- ・社会科学的教育の充実も必要と考える（研究科も同様）。
- ・学生支援は充分であると考えますが、満足度が低いことについては検討が必要である（学生の満足度の向上対策）。
- ・各種アンケート調査結果を今後の改善に活かすこと

B 教育－研究科－

- ・授業アンケートの実施は必要である。
- ・入試科目の統一または一部共通科目（英語）を設けることを検討してもらいたい。

C 研究

- ・研究内容を分かりやすく Web に掲載するなど、農学部の研究活動を広く理解してもらおう。

D 社会連携

- ・静岡県との連携や、地域の産業界との連携を一層深め、研究・教育の地元への還元を期待する。

E 国際交流

- ・国際学会の開催など積極的な対応を。

F 組織

- ・運営にあたっては執行部のリーダーシップの発揮を期待する。

5-2 総合評価

「事前審査」によるアンケート結果と「当日調査」の質疑応答並びに外部評価委員会の講評から、「静岡大学農学部は総合的に優れている」と高く評価された。これは、法人化後農学部が精力的に改善に取り組んできた成果であると考えられる。

しかし、今後さらなる発展をするためには、「教育、研究、社会貢献、国際交流のそれぞれについて積極的な取組みがなされているが、その具体的な内容についてより分かりやすく広くアピールする必要がある。」、また「教員数が限られている中、教育、研究、社会連携、国際交流などについて全てに秀でることは困難である。今後は、これらの項目に順位付けし、特化することにより静岡大学農学部の特徴を明確にすべきである。」などの指摘を受けた。

今回の外部評価で指摘された事項については、農学部の企画運営会議や関係する委員会で検討し、今後の改善につなげることが不可欠である。

アンケート調査結果

各外部評価委員の評価点と指摘事項をまとめた。

なお、評価点は、1. 優れている、2. やや優れている、3. 適正である、4. 若干の修正が必要である、5. 大幅な改善が必要であるの5段階評価とした。

A (教育 一学部一)

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 教育の目的	3. 適正である 3. 適正である 1. 優れている 2. やや優れている	<p>「基本目標」「教育目標」「目標」「目的」(p.3)「使命」(p.140)「基本方針」(p.37)など「目標」に類する用語の使い分けが必ずしも明確でない。</p> <p>学校教育法に基づき教育の目的を定め、教職員、学生に周知し、また Web に公表している。</p> <p>教育活動の方針が明確で、広く公表されている。</p> <p>大学憲章および農学部憲章を作成し、教育基本戦略を明確にすると良い。20 年度学生便覧に間に合うように、農学部規則を改正するとよかった。3月20日の教授会の出席率は？(教員に周知できたか)</p>
基準 2 教育の実施体制	2. やや優れている 1. 優れている 1. 優れている 2. やや優れている	<p>講座の名前、例えば人間環境科学講座などは、何を目的に教育する内容かわかりにくい。</p> <p>学科再編により時代の要請に応える講座となった。教育改善の組織体制が整備され、機能している。</p> <p>将来と時流に対応した教育の実施体制となっている。</p> <p>生物生産分野を強化し、森林科学を縮小し、新たな教育体制を構築したと理解する。教授会と代議員会の役割分担はあるのか。兼務教員は教育・管理運営で専任教員と同等なのか。非常勤講師 28%は適正か。</p>

<p>基準 3 教員及び教育支援体制</p>	<p>3. 適正である 1. 優れている 2. やや優れている 2. やや優れている</p>	<p>「目的」を着実に実行するには、女性、外国人教員数（比率）を高めることが重要と考えるが、他大学と比較してどうか？ 学生の授業アンケートや教員の教育活動の点検、評価など、評価を適正に実施し、結果を有効活用している。 教員採用基準が定められており、また教育評価もアンケートにより適切に運営されている。 教育に軸足を置いている大学か、研究に重点を置いている大学か、どちらですか。実施報告書の提出状況は30%で低い。教員の意識改革が必要です。研究機関からの採用の場合、教育指導能力の評価はどのようにしていますか。</p>
<p>基準 4 学生の受入れ</p>	<p>2. やや優れている 3. 適正である 2. やや優れている 2. やや優れている</p>	<p>今後も優秀な学生を受け入れるような取組みを続けることが重要。 入学者受入れ方針を公表し、選抜方法を検証して改善に役立てるなど適切な実施体制で、構成に行っている。 学生の受入れに関する広報活動が十分に行われ、また常に選抜方法の改善も行われている。 充足率108%は多いと思う。留学生、社会人及び編入学生は昨年度何名でしたか。</p>
<p>基準 5 教育内容及び方法</p>	<p>2. やや優れている 2. やや優れている 2. やや優れている 1. 優れている</p>	<p>農林業や食品産業も世界や政治経済の動きを十分理解しておくことが重要である。社会科学的教育の充実が必要である。 教養科目と専門科目で構成されバランスのよい一貫教育となっている。他大学との単位互換や連携講義を一層進めて欲しい。 教養と専門科目のバランスがとれたカリキュラムである。 多彩な教育方法が実施され、優れている。他学部の講義を受講する学生が少ない。経済学、法学の講義を聞くとよい。実験、実習を重視しているので、適正人員にするとうい(108%は多い。)</p>

<p>基準 6 教育の成果</p>	<p>3. 適正である 3. 適正である 4. 若干の修正が必要である。 2. やや優れている</p>	<p>標準修了年限内に修了する比率を上げる。就業人口の減少する中、若者は社会で活躍させることが必要。 学生の就職先企業へのアンケートの結果を見ると、目標とする成果が得られている。国際感覚と語学力の向上については検討を要する。 就職先企業からの評価が高い。 就職者の定着率はどうか（1年後）。他大学院への進学希望者が少ない。国際感覚と外国語能力の不足の対策はどうしますか。</p>
<p>基準 7 学生支援等</p>	<p>2. やや優れている 1. 優れている 2. やや優れている 2. やや優れている</p>	<p>なし。 情報伝達および多岐にわたる学生の支援など十分と考える。 学生支援は充分に行われている。 適切な支援体制が出来ている。指導教員の手引きは良い。きめ細かなガイダンスを実施している。クラス担任1名は少ないと思う。</p>
<p>基準 8 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>	<p>3. 適正である 1. 優れている 2. やや優れている 2. やや優れている</p>	<p>授業アンケートの結果表 (p.177) の「授業が改善されたか」との間に対する点数が他の設問に比べ低い。教員のアンケート回答率が低い（教員が忙しい？） アンケート等により自己点検・評価に活かして組織的に改善している点が優れている。 アンケートの実施により常に改善が図られている。 学生、卒業生及び就職先の企業のアンケート調査によって、教育の質の向上に努めている。教員の意識が少し低い。回答率が64%である。</p>
<p>総合評価</p>	<p>2. やや優れている 1. 優れている 2. やや優れている 2. やや優れている</p>	<p>なし。 教育成果の向上に熱心に取り組んでいるが、教員の負担が課題にならないか、検討を要する。 教育（学部）として高く評価できる。 教育の質の向上に向けて努力されていると評価する。</p>

アンケート票 B (教育—研究科—)

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 教育の目的	2. やや優れている 3. 適正である 1. 優れている 2. やや優れている	<p>農学部規則の「生物生産を中心に…」と研究科規則の「衣食住を充足するための…」との関係を明確にしておく必要がある。</p> <p>明確に定めて、教職員、学生に周知するとともに Web ページなどで公表している。</p> <p>教育活動の方針が明確で、広く公表されている。</p> <p>環境がキーワードになっているのに、人間環境科学専攻をなくした理由が分からない。改組して学生数が減少したのでは？どんな人材を養成するのか（研究者、技術者なのか）。</p>
基準 2 教育の実施体制	2. やや優れている 1. 優れている 1. 優れている 2. やや優れている	<p>研究科委員会と代議員会等との関係は？</p> <p>意思決定の流れが企画運営会議から教授会まで明快で、取組みが効果的に行われている。</p> <p>将来と時流に対応した教育の実施体制となっている。</p> <p>教務委員会は、学部と研究科を含めているが、分離した方がよいのではと思う。委員は、研究科担当教員なのか、助教はなれないのか。</p>
基準 3 教員及び教育支援体制	3. 適正である 3. 適正である 2. やや優れている 2. やや優れている	<p>教員数 69 に対して、これを補助する職員（技官など）が十分に確保されているのか？</p> <p>授業アンケートを実施して、学生の評価というよりも考え方を把握した方が良い。学生当たり教職員数は良い。</p> <p>学部との兼務が多いが、教職員採用基準が明確に定められており、適切に運営している。</p> <p>改組後の教員配置はどうなっているのか。各専攻の定員はあるのか、外国人教員、女性教員の目標数はあるのか。任期制はどのようになっているのか。個人評価はどのよう</p>

基準 4 学生の受入れ	<ol style="list-style-type: none"> 2. やや優れている 3. 適正である 2. やや優れている 2. やや優れている 	<p>選抜方法の試験の内容が専攻によって異なるが、外に向けて十分説明できるものか？入学定員と入学者の適正化は図られたか？</p> <p>入学者受入れ方針に基づいて適正に選抜されている。</p> <p>多方面から優秀な人材を確保できるように努力している。</p> <p>専攻により入試科目に相違がある。統一するとよい。試験問題は共通ですか。問題は公表しているか。留学生、社会人の入学者数はどれくらいか。専攻に充足率の差がある。</p>
基準 5 教育内容及び方法	<ol style="list-style-type: none"> 2. やや優れている 3. 適正である 2. やや優れている 3. 適正である 	<p>修了者は必ずしも研究機関だけに就職しないと思うが、社会、経済についても深く考えさせる教育が必要ではないか？</p> <p>GAP 制度の導入を是非進めて欲しい。単位互換が出来る他大学を多くし、学生にチャンスを与えて欲しい。</p> <p>幅広い専門知識を備えた質の高い技術者の育成を目指したカリキュラムになっている。</p> <p>シラバスに 15 回の講義内容が記載され、15 回実施しているのか。授業時間表はあるのか。成績評価は秀と優ばかりでは？試験を実施しているか。他大学との単位互換は不十分である。</p>
基準 6 教育の成果	<ol style="list-style-type: none"> 3. 適正である 1. 優れている 1. 優れている 3. 適正である 	<p>専門的分野の知識や技術の達成度は高いが、リーダーシップの達成度が低い。静岡県への就職率が低い。</p> <p>学生、企業のアンケートを見る限り優れた成果がある。</p> <p>就職先企業からの評価が高い。</p> <p>進路において学部生と差があるか。研究者と技術者は何%ぐらいか。アンケートによる学生の不満は学部より多い。</p>

<p>基準 7 学生支援等</p>	<p>2. やや優れている 2. やや優れている 2. やや優れている</p>	<p>学生の研究、学習スペース、環境が他大学に比較して十分かどうか検証してみる必要。留学生は今後わが国との架け橋になる人材、生活環境で気を配る必要あり。海外研修や外国大学との単位の互換などもっと容易にし、海外研修の経済的な支援を図りたい。 学生支援は充分に行われている。 指導教員、副指導教員、そしてクラス担任の役割分担はあるのか。公務員試験を受験する学生はどれくらいか。</p>
<p>基準 8 教育の質の向上及び改善のためのシステム</p>	<p>2. やや優れている 1. 優れている 2. やや優れている 3. 適正である</p>	<p>専門知識の習得はほぼ十分だが、国際感覚、外国語などの修得が十分でないとのアンケート結果である。 アンケートによりニーズを把握し、改善するシステムが出来ている。授業評価アンケートは実施したい。 FD や TA の取組みなど質の向上及び改善が見られる。 大学院総合科目、専攻共通科目、そして専攻科目の具体的な科目名は何ですか。</p>
<p>総合評価</p>	<p>2. やや優れている 2. やや優れている 2. やや優れている 2. やや優れている</p>	<p>専門知識と広い国際感覚を持った研究者、技術者の育成のため、学業以外の周辺環境も他大学以上に魅力あるものにしてもらいたい。 指摘したいいくつかの改善が望ましい。 教育（研究科）として高く評価できる。 中・長期目標に向かって、着実に改革を進めている、教育の充実を期待する。</p>

アンケート票 C (研究 一学部・研究科一)

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 研究の目的	2. やや優れている 3. 適正である 1. 優れている 1. 優れている	基本目標に掲げている「学理や技術の進化」を成果創出の目標に具体的に表現していいのではないかと。 目的が明確にされており、公表されている。 研究の目的、基本方針が明確で、広く公表されている。また、東海地域の豊かな環境や資源を背景とした研究が基盤となっている。 研究の目的が明確で理解しやすい。
基準 2 研究の実施体制	2. やや優れている 1. 優れている 1. 優れている 1. 優れている	県内には優れた企業が数多くあるので、産業力強化のために産学の連携に一層力をいれてもらいたい。 教員の個人評価 4 項と研究業績、外部資金獲得状況等の研究活動を職員全員が共有する転がが良い。企画室が研究全般に亘る課題の調整をするのがシステムとして良い。 農学と先端科学技術の広い視点から研究を遂行する体制となっている。 教員の個人評価を適切に実施し、年報で公表している。企画室を設置し、学部全体の研究活動を活発にするシステムは高く評価できる。
基準 3 研究活動の状況と成果	2. やや優れている 1. 優れている 1. 優れている 1. 優れている	外部研究資金の確保に一層努めてもらいたい。国際レベルの学会の開催などをお願いしたい。 法人化後に論文数、被引用件数、研究資金のいずれも大幅に伸び、受託研究、共同研究も増加している。学会等での受賞者数も多くなっている。 研究活動の実施状況は大変活発である。また、その成果についても広く公表され、アクトネイビティが高い。 各専攻の研究活動は大変活発である。競争的研究資金を積極的に獲得している。論文は質の高い国際誌に発表し、日本の農学部ではトップクラスである。

<p>基準 4 研究の質の向上及び改善のためのシステム</p>	<p>3. 適正である 3. 適正である 2. やや優れている 1. 優れている</p>	<p>研究の質を向上させるには、研究成果の受益者の評価も重要。大学の研究を外から見えないようにする仕組みづくりを他大学に先んじてつくりあげられないか。研究成果や外部資金の導入状況等の情報が教員全員に共有されるシステムが整備されており、個人補床を教員が確認できる。 研究については、学術論文、特許などにより数値的実績に基づき評価されている。また、研究成果の点検、再評価が適切に行われている。 自己点検評価を実施し、絶えず研究の質の向上を目指していると評価できる。個人評価の活用はどうしているか。</p>
<p>総合評価</p>	<p>2. やや優れている 1. 優れている 1. 優れている 1. 優れている</p>	<p>研究の実施体制、研究者や資金など、他大学に比べて恵まれているが、県内にある国立大学の代表として更に充実してもらいたい。 ホームページを開くと最初に“研究のトピックス”として素人にも分かりやすい成果が紹介されている大学がある。論文数や賞を研究者間で比べることも大切であるが、アピールも大切。 専門性が高く、また学術レベルも高く優れている。 各専攻とも、農学部研究において国際的レベルを維持している。外部資金が17年度以降減少しているが、獲得の増加を期待する。</p>

アンケート票 D (社会連携 一学部・研究科一)

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 教育サービスマンにおける社会連携活動の目的	2. やや優れている 3. 適正である 1. 優れている 3. 適正である	目的が明確であり、社会連携を重視している姿勢が示されている。より広く社会に知らせてもらうことを進めてもらいたい。 目的を明確にし、公表している。 「中期目標計画」や「大学のビジョン・戦略」において、社会連携活動が明確に定められ、また大学内に広く周知されている。 大学としての社会連携活動の目的は定められているが、学部としての位置付けが分かりにくい。
基準 2 教育サービスマンにおける社会連携活動の状況と成果	2. やや優れている 1. 優れている 1. 優れている	社会人ブランチジュニアの取組みの充実を。 社会人、地域住民、学生に対する公開講座や農業体験など、多忙で研究業務への影響が懸念される。 社会人から児童や一般市民向けの食・環境に関わる教育推進を積極的に行っている。 地域住民へのサービス、初等、中等教育機関との連携がうまく実施されている。スーパー・サイエンス・ハイスクールからの入学生はありますか。何人ぐらい？地域への貢献度が高いと評価できる。
基準 3 研究サービスマンにおける社会連携活動の目的	2. やや優れている 3. 適正である 1. 優れている 2. やや優れている	地域社会全体のニーズを把握するためにも、社会連携活動をより周知してもらいたい。 公表の方法に工夫が必要と考える。例えば、若い人達にはパソコンにて情報を伝えることができるので、画面、レイアウトに工夫するとよいのでは。 地域社会とともに新たな文化、化学の発信基地としての役割を目的として、大学のビジョン・戦略なども広く公表されている。 農学部独自の社会連携活動の目的を明確にすると良い。実際に活発な活動を実施しているので、目的を明確にするとよい。

<p>基準 4 研究サービスマ面における社会連携活動の状況と成果</p>	<p>2. やや優れている</p> <p>1. 優れている</p> <p>1. 優れている</p> <p>1. 優れている</p>	<p>共同研究等を積極的に進めている。</p> <p>地域産業、農業団体、地方公共団体等との連携した取組みが多くなっている。</p> <p>産業界、行政機関と連携して積極的に活動している。</p> <p>研究成果を積極的に地域社会へ発信している。静岡県との連携がうまくいっており、成果も上がっていると評価できる。</p>
<p>総合評価</p>	<p>2. やや優れている</p> <p>1. 優れている</p> <p>1. 優れている</p> <p>1. 優れている</p>	<p>社会は大学に多くのサービスを期待している。これに応えるよう積極的な対応をお願いしたい。</p> <p>地域の産業に目配りした研究活動や貢献は評価できる。</p> <p>地域社会とともに歩む社会連携について積極的な取組みが見られる。</p> <p>他大学には見られない社会貢献を果たしている。農学のアピールを地域にしていくことを期待する。スーパー・サイエンス・ハイスクールの多くの学生を入学させると活性化につながる。</p>

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 国際交流活動の目的	2. やや優れている 3. 適正である 2. やや優れている 2. やや優れている	国際交流活動の計画が明確である。具体的な行動計画が見えるようになると様々な協力の申し出があるのではないか。 なし。 国際交流活動の目的が中期目標・計画に定められている。 国際交流活動を積極的に推進していく姿勢が受け取れる。発展途上国からの留学生の指導に適していると判断できる。
基準 2 教育面における国際交流活動の状況と成果	3. 適正である 2. やや優れている 1. 優れている 1. 優れている	学生の国際感覚を磨くには、積極的に海外の大学との連携を進めることが求められる。学術交流や単位互換制度について、学生が取り組みやすい環境を一層進めて欲しい。 毎年約 40 名の留学生を受け入れており、学術交流も積極的に行われている。 毎年多くの留学生を受入れ、レベルの高い研究指導をし、学位を授与させている。留学生を指導できる教員が多い。
基準 3 研究面における国際交流活動の状況と成果	3. 適正である 2. やや優れている 2. やや優れている 1. 優れている	海外研究者の受入れや国際学会の開催など積極的な対応を。 なし。 教職員の受入れ、派遣、国際会議開催・参加、共同研究など積極的に実施されている。 国際学会で発表する教員が多く、研究活動が活発で、研究の質の向上につながっている。 海外の大学等との共同研究も良く実施している。
総合評価	2. やや優れている 2. やや優れている 2. やや優れている 1. 優れている	県内の私立大学でも国際交流に力を入れている。積極的な対応が高い評価に結びつく。 なし。 国際交流活動が積極的に行われており、その成果に期待したい。 多くの留学生の指導、国際学会での発表、そして海外との共同研究が活発であると評価できる。国際レベルの大学であると期待できる。

項 目	評 価 点	指 摘 事 項
基準 1 施設と整備	4. 若干の修正が必要である。 2. やや優れている 1. 優れている	<p>農学部建物の建設後年数が経っているので、情報ネットワークや IT 機器の活用や利用が十分できる施設か。ほかの先進大学などと比較、検討することが必要。</p> <p>利用しやすく便宜が図られている。</p> <p>整備計画に基づき整備が進められ、有効に活用されている。</p> <p>遊休施設や利用率の低い施設を有効に利用できるように努力が認められる。学部長等管理者の施設整備に対する指導力は優れている。農学部図書室を全学附属図書館に統合するとよい（農学部図書室の利用率が少ない）。</p>
基準 2 財務	3. 適正である 1. 優れている 1. 優れている 2. やや優れている	<p>研究資金を獲得するための組織的な取組みを積極的にお願いしたい。</p> <p>なし。</p> <p>受託、共同研究の件数および研究経費額が大幅に増加しており、外部資金導入への取組みが活発に行われている。</p> <p>外部資金の獲得に努力されている。学部長裁量経費は教育、研究の活性化につながると評価できる。連大予算、創造科学技術大学院からの予算配分はどうしているのか。</p>
基準 3 管理運営	2. やや優れている 1. 優れている 2. やや優れている 2. やや優れている	<p>なし。</p> <p>なし。</p> <p>企画運営会議、学科長会議、教授会を整備しており、適切な管理運営がなされている。</p> <p>将来構想委員会や自己点検評価委員会は設置しないのか。企画運営会議と学科長会議は統合できないのか。教授会と代議員会の審議事項の相違は？</p>

総合評価	3. 適正である 1. 優れている 2. やや優れている 2. やや優れている	先進的な研究、快適な環境での教育が行われるよう施設の充実を。 なし。 管理運営組織により適切な運営が行われている。 施設整備、財務、管理運営の見直し等、学部の質の向上に努めて改革を実行している。よい傾向である。
------	--	--

<別紙 6 - 1 >

A 教育 -学部-

項 目		外部評価委員				平均評価点
		A	B	C	D	
基準 1	教育の目的	3	3	5	4	3.75
基準 2	教育の実施体制	4	5	5	4	4.5
基準 3	教員及び教育支援体制	3	5	4	4	4
基準 4	学生の受入れ	4	3	4	4	3.75
基準 5	教育内容及び方法	4	4	4	5	4.25
基準 6	教育の成果	3	3	2	4	3
基準 7	学生支援等	4	5	4	4	4.25
基準 8	教育の質の向上及び改善のためのシステム	3	5	4	4	4
総 合 評 価		4	5	4	4	4.25

B 教育 -研究科-

項 目		外部評価委員				平均評価点
		A	B	C	D	
基準 1	教育の目的	4	3	5	4	4
基準 2	教育の実施体制	4	5	5	4	4.5
基準 3	教員及び教育支援体制	3	3	4	4	3.5
基準 4	学生の受入れ	4	3	4	4	3.75
基準 5	教育内容及び方法	4	3	4	3	3.5
基準 6	教育の成果	3	5	5	3	4
基準 7	学生支援等	4	4	4	4	4
基準 8	教育の質の向上及び改善のためのシステム	4	5	4	3	4
総 合 評 価		4	4	4	4	4

C 研究

項 目		外部評価委員				平均評価点
		A	B	C	D	
基準 1	研究の目的	4	3	5	5	4.25
基準 2	研究の実施体制	4	5	5	5	4.75
基準 3	研究活動の状況と成果	4	5	5	5	4.75
基準 4	研究の質の向上及び改善のためのシステム	3	3	4	5	3.75
総 合 評 価		4	5	5	5	4.75

D 社会連携

項 目		外部評価委員				平均評価点
		A	B	C	D	
基準 1	教育サービス面における社会連携活動の目的	4	3	5	3	3.75
基準 2	教育サービス面における社会連携活動の状況と成果	4	5	5	5	4.75
基準 3	研究サービス面における社会連携活動の目的	4	3	5	4	4
基準 4	研究サービス面における社会連携活動の状況と成果	4	5	5	5	4.75
総 合 評 価		4	5	5	5	4.75

E 国際交流

項 目		外部評価委員				平均評価点
		A	B	C	D	
基準 1	国際交流活動の目的	4	3	4	4	3.75
基準 2	教育面における国際交流活動の状況と成果	3	4	5	5	4.25
基準 3	研究面における国際交流活動の状況と成果	3	4	4	5	4
総 合 評 価		4	4	4	5	4.25

F 組織

項 目		外部評価委員				平均評価点
		A	B	C	D	
基準 1	施設と整備	2	4	4	5	3.75
基準 2	財務	3	5	5	4	4.25
基準 3	管理運営	4	5	4	4	4.25
総 合 評 価		3	5	4	4	4

6. 外部評価に対する今後の取り組み

<教務関係>

① 教育実施体制

- ・教育の「目的」を着実に実行するには、女性、外国人教員数（比率）を高めることが重要と考えるが、他大学と比較してどうか？
- ・教育成果の向上に熱心に取り組んでいるが、教員の負担が過大にならないか、検討を要する。
- ・指導教員、副指導教員、そしてクラス担任の役割分担はあるのか。

② 教育内容

- ・農林業や食品産業も世界や政治経済の動きを十分理解しておくことが重要である。社会科学的教育の充実が必要である。
- ・他大学との単位互換や連携講義を一層進めて欲しい。
- ・他学部の講義を受講する学生が少ない。経済学、法律学の講義を聞くとよい。
- ・標準修了年限内に修了する比率を上げる。
- ・国際感覚と語学力の向上については検討を要する。
- ・国際感覚と外国語能力の不足の対策はどうしますか。
- ・修了生のアンケートによる学生の不満は学部より多い。
- ・GAP 制度の導入を是非進めて欲しい。単位互換が出来る他大学を多くし、学生にチャンスを与えて欲しい。
- ・(研究科) シラバスに 15 回の講義内容が記載され、15 回実施しているのか。授業時間表はあるのか。成績評価は秀と優ばかりでは？試験を実施しているか。他大学との単位互換は不十分である。
- ・海外研修や外国大学との単位の互換などもっと容易にし、海外研修の経済的な支援を図られたい。
- ・学生の国際感覚を磨くには、積極的に海外の大学との連携を進めることが求められる。

③ 教育支援体制

- ・教務委員会は、学部と研究科を含めているが、分離した方がよいのではと思う。委員は、研究科担当教員なのか、助教はなれないのか。

④ 教育の成果

- ・修了者は必ずしも研究機関だけに就職しないと思うが、社会、経済についても深く考えさせる教育が必要ではないか？
- ・修了生の専門的分野の知識や技術の達成度は高いが、リーダーシップの達成度が低い。
- ・学生の研究、学習スペース、環境が他大学と比較して十分かどうか検証してみることが必要。

⑤ 学生支援

- ・留学生は今後わが国との架け橋になる人材、生活環境で気を配る必要あり。

- ・専門知識と広い国際感覚を持った研究者、技術者の育成のため、学業以外の周辺環境も他大学以上に魅力あるものにしてもらいたい。

- ・学術交流や単位互換制度について、学生が取り組みやすい環境を一層進めて欲しい。

⑥ 研究科の学生受入れ

- ・研究科の選抜方法の試験内容が専攻によって異なるが、外に向けて十分説明できるものか？改組により入学定員と入学者の適正化は図られたか？

- ・専攻により入試科目に相違がある。統一するとよい。試験問題は共通ですか。問題は公表しているか。留学生、社会人の入学者数はどれくらいか。専攻に充足率の差がある。

<入試関係>

- ・今後も優秀な学生を受け入れるような取組みを続けることが重要。

- ・充足率 108%は多いと思う。留学生、社会人及び編入学生は昨年度何名でしたか。

- ・実験、実習を重視しているので、適正人員にするとよい（108%は多い。）

<学生委員会（就職担当）>

- ・就職者の定着率はどうですか（1年後）。

- ・他大学院への進学希望者が少ない。

- ・クラス担任1名は少ないと思う。

- ・修了生の静岡県への就職率が低い。

- ・修了生の進路において学部生と差があるか。研究者と技術者は何%くらいか。

<広報関係>

- ・大学の研究を外から見えるようにする仕組みづくりを他大学に先んじてつくりあげられないか。

- ・ホームページを開くと最初に“研究のトピック”として素人にも分かりやすく成果を紹介している大学がある。論文数や賞を研究者間で比べることも大切であるが、成果を一般の人達にアピールすることも大切。

- ・より広く社会に知ってもらうことを進めてもらいたい。

- ・地域社会全体のニーズを把握するためにも、社会連携活動をより周知してもらいたい。

- ・公表の方法に工夫が必要と考える。例えば、若い人達にはパソコンにて情報を伝えることができるので、画面、レイアウトに工夫するとよいのでは。

- ・農学のアピールを地域にしていくことを期待する。

<FD関係>

- ・アンケート実施報告書の提出状況は30%で低い。教員の意識改革が必要です。
- ・授業アンケートの結果表(p.177)の「授業が改善されたか」との問に対する点数が他の設問に比べ低い。教員のアンケート回答率が低い(教員が忙しい?)
- ・教員の意識が少し低い。回答率が64%である。
- ・研究科では、授業アンケートを実施して、学生の評価というよりも考え方を把握した方が良い。
- ・研究科の授業評価アンケートは実施したい。

<企画運営関係>

① 目標・目的

- ・「基本目標」「教育目標」「目標」「目的」(p.3)「使命」(p.140)「基本方針」(p.37)など「目標」に類する用語の使い分けが必ずしも明確でない。
- ・大学憲章および農学部憲章を作成し、教育基本戦略を明確にすると良い。
- ・教育に軸足を置いている大学か、研究に重点を置いている大学か、どちらですか。
- ・農学部規則の「生物生産を中心に…」と研究科規則の「衣食住を充足するための…」との関係を明確にしておく必要がある。
- ・研究の基本目標に掲げている「学理や技術の進化」を成果創出の目標に具体的に表現してもいいのではないか。
- ・大学としての社会連携活動の目的は定めてあるが、学部としての位置付けが分かりにくい。
- ・農学部独自の社会連携活動の目的を明確にすると良い。実際に活発な活動を実施しているので、目的を明確にするとよい。
- ・国際交流活動の計画が明確である。具体的な行動計画が見えるようになると様々な協力の申し出があるのではないか。

② 実施体制

- ・教授会と代議員会の役割分担はあるのか。兼務教員は教育・管理運営で専任教員と同等なのか。非常勤講師28%は適正か。
- ・研究科委員会と代議員会等との関係は?
- ・研究機関からの採用の場合、教育指導能力の評価はどのようにしていますか。
- ・教員数69に対して、これを補助する職員(技官など)が十分に確保されているのか?
- ・社会人、地域住民、学生に対する公開講座や農業体験など、多忙で研究業務への影響が懸念される。
- ・改組後の教員配置はどうなっているのか。各専攻の定員はあるのか、外国人教員、女性教員の目標数はあるのか。任期制はどのようにしているのか。個人評価はどのように。
- ・個人評価の活用はどうしているか。

・企画運営会議と学科長会議は統合できないのか。教授会と代議員会の審議事項の相違は？

③ 学部・研究科の構成

- ・講座の名前、例えば人間環境科学講座などは、何を目的に教育する内容かわかりにくい。
- ・環境がキーワードになっているのに、人間環境科学専攻をなくした理由が分からない。改組して学生数が減少したのでは？どんな人材を養成するのか（研究者、技術者なのか）。

④ 施設・設備

- ・農学部建物の建設後年数が経っているので、情報ネットワークや IT 機器の活用や利用が十分できる施設か。
- ・農学部図書室を全学附属図書館に統合するとよい（農学部図書室の利用率が少ない）。
- ・先進的な研究、快適な環境での教育が行われるよう施設の充実を。

⑤ その他

- ・県内には優れた企業が数多くあるので、産業力強化のために産学の連携に一層力をいれてもらいたい。
- ・外部研究資金の確保に一層努めてもらいたい。国際レベルの学会の開催などをお願いしたい。
- ・海外研究者の受入れや国際学会の開催など積極的な対応を。
- ・社会人ブラッシュアップの取組みの充実を。
- ・スーパー・サイエンス・ハイスクールからの入学生はありますか。何人ぐらい？スーパー・サイエンス・ハイスクールの多くの学生を入学させると活性化につながる。
- ・社会は大学に多くのサービスを期待している。これに応えるよう積極的な対応をお願いしたい。
- ・研究資金を獲得するための組織的な取組みを積極的にお願いしたい。
- ・連大予算、創造科学技術大学院からの予算配分はどうしているのか。

7. 各委員から頂いた質問、コメント、評価

7-1 質疑応答での各委員からの質問、意見 省略

7-2 外部評価委員長以外の委員からの講評

外部評価委員会後にいただいた各委員からの講評を以下にとりまとめた。

堀川委員 : 全体としては優れていると判断できる。しかし、全ての項目に優れていなければならないとは考えていない。むしろ、大学としては、一番力を入れているもの、重要なものを明確にしてはどうか。特に、地域の産業との連携に重点を置き、強調してはどうか。また、その際、連携にどのように取り組むのか、大学としての役割を具体的に示せたらよいだろう。今回の自己評価が今後の改善に結びつくように期待している。

芹澤委員 : 全体としては、教育、研究に熱心に取り組んでいることがよく理解できた。しかし、全てに力を入れる対応することは、個々の教員の負担が大きくなりすぎる。特定の項目への重点化や分担など、負担を軽減する工夫が必要と考える。

学生支援の充実とアンケートでの学生の満足度との間のギャップについては、アンケート結果の解析を行い、原因究明する必要があると思う。

「研究トピックス」など、一般の人にもわかりやすい Web ページを作成し、大学が何をやっているか理解できる PR をしてほしい。

坂井委員 : 研究、社会連携部門については、優れた活動・実績があり、高く評価できる。これは、企業が多く、産業が盛んな地域にあるという立地環境が大きい。さらに地域と連動して、活力ある研究を進めてほしい。また、研究や社会連携の取組みを教育に結び付けてほしい。

8. あとがき

静岡大学農学部は、県内唯一の農学部として昭和22年に農科、林科の2科で発足後、現在までに幾多の人材を世に輩出し、高い評価を得ていると自負していた。しかし、平成13年度に行った初めての外部評価では、学部の「理念」そのものへのご批判、あるいはそこに記されていた「理念」と実際の教育との乖離に対するご指摘を頂いた。また、平成15年の（独）大学評価・学位授与機構による「試行的評価」（「分野別教育評価平成14年度着手分農学系」）では、特に大学院教育の内容と教員の取り組み姿勢に対して厳しいご批判を頂いた。これらをご意見、ご批判を糧に、教育、研究活動、社会的貢献、組織運営等を見直し、平成16年度の学校法人化を機に策定された中期目標・計画に反映させるとともに、その遂行に努めてきた。

平成18年度には、共生バイオサイエンス学科、応用生物化学科、環境森林科学科の3学科への改組とカリキュラムの大幅な見直しを行い、教育の充実を図った。また、競争的資金の獲得への取り組み体制の整備などの組織的な研究支援や、学生の教育環境を整備するための施設整備も積極的に行ってきた。

今回の外部評価は、法人化後大学を巡る環境が大きく変わる中で、農学部が行ってきたこれら様々な取り組みに対して、その客観的な評価を行うものである。その結果、「総合的に優れている」との高い評価が得られた。これは、農学部の教職員一人一人が人的、資金的に必ずしも恵まれない中で、創意工夫により教育・研究・社会貢献・国際交流などの活性化を図ってきた成果である。

一方、外部評価を通じて、学生の「国際感覚」と「外国語能力」の向上という課題が明確となった。また、外部評価委員の方々からは、今後の発展には「情報発信の充実」と「独自色の創造」が不可欠であると、規模の小さな本学部が生き残っていくための戦略についてもご示唆を頂いた。

今回頂いたご意見を残された中期計画期間での改善や次期中期目標・計画に向けての課題と目標として、静岡大学農学部が学生、社会、教職員にとって魅力あるものにしたいと考えている。最後に、ご多忙の中、評価を賜りました外部評価員各位に心より感謝申し上げます。

平成20年10月末日

静岡大学農学部自己評価委員長

森田 明雄

自己評価委員会委員名 一覧

平成 19 年度

安村 基（委員長）

高木 敏彦（評議員）

祖父江 信夫

森田 明雄

柴垣 裕司

平成 20 年度

森田 明雄（委員長）

鈴木 滋彦（評議員）

祖父江 信夫

茶山 和敏

柴垣 裕司